

西原古墳群第 17 地点

染井 千佳

【西原古墳群第 17 地点第 5 次調査概要】

所在地 水戸市堀町字馬場東 301 番 1, 303 番 1
調査原因 個人住宅建設に伴う本発掘調査
調査期間 平成 30 年 7 月 26 日～9 月 28 日
調査面積 約 258 m²
調査主体 水戸市教育委員会（担当：染井千佳，米川暢敬）

1 遺跡の概要

西原古墳群は、水戸市北西部、那珂川の支流・田野川に北面する上市台地の標高約 30.0m に位置する古墳群である。同台地上の東約 2 km の地点には、台渡里官衙遺跡群が存在する。

当該古墳群内では、過去にも分布調査、測量調査、発掘調査が実施されてきた。

昭和 26（1951）年、茨城高等学校史学部によって発掘調査が実施され、勾玉・管玉・丸玉・銅環・鉄鏃・土師器（高台付碗）等の副葬品が出土したことが報告されている（第 6 号墳）。平成 9（1997）年には、水戸市教育委員会による分布調査が実施され、前方後円墳 1 基、円墳 7 基を擁する古墳群であると報告された。この分布調査においては、遺跡範囲内にある畑地からの蔵骨器出土が伝えられており、火葬墓群の存在も想定された。平成 21（2009）年には、明治大学考古学研究室によって前方後方墳（第 1 号墳）、円墳（第 11 号墳）等が測量されている。

平成 24（2012）年度には、今次調査地点の北に位置する第 16 地点の試掘・本発掘調査が行われ、新たに 6 基の埋没古墳を発見した（第 15～20 号墳）。この時確認された円墳 2 基からは埋葬施設が確認されている（第 19・20 号墳）。

平成 27（2015）年には、今次調査地点を含む第 17 地点の試掘調査が行われ、複数の周溝及び埋葬施設が確認された（第 17 地点第 1 次調査）。平成 28（2016）年度からは、各区画の開発計画に合わせ、第 17 地点東側の 2 区画において、本発掘調査が行われている（第 2・3 次調査）。この調査では、墳丘が現存する第 11 号墳の周溝が確認されている。

平成 30 年現在、包蔵地内において、延べ 19 地点 27 次の発掘調査が行われており、墳丘が削平されたものを含め、計 23 基の古墳からなる古墳群であると推定される（表 1）。

2 調査の成果

(1) 第 21 号墳

調査区東側で確認された、周溝と埋葬施設からなる円墳である。周溝は、外縁径約 9 m、内縁径約 7.5 m（ともに残存規模）の規模である。埋葬施設は、無袖・切石積み横穴式石室を有する。玄室の奥壁は上底約 60 cm、下底約 75 cm、高さ約 85 cm の台形を呈する一枚石、側壁は一辺 15～40 cm 程度の切石を 3～6 段積み上げる。石材は大部分が砂岩である。奥壁・梱石・羨道側壁の一部に凝灰質泥岩を用い、一部白色粘土による目張りを行う。石室底面は内法の長軸 1.79～1.90 m、短軸 0.59～0.72 m を測る。底面は 5～15 cm 前後の円礫による礫床である。梱石の直上には人頭大の円礫が集積され、当該石室は円礫による閉塞が行われたと考えられる。また、天井石・東側側壁石材の一部を失っている。

埴輪・副葬品をはじめとする遺物の出土は確認されていない。被葬者についての手がかりは得

られていないが、築造時期は、古墳の規模、石室の形態より、7世紀代と考えられる。

(2) 第22号墳

調査区西側で確認された遺構である。大部分が調査区外に展開する円墳と考えられるため、今次調査においては、周溝の一部が確認されるのみである。

なお今次調査区内においては、このほかにピットが8基確認されているが、いずれも時期・性格に関する手がかりは得られなかった。

4 まとめ

上記のとおり、今次調査においては、古墳2基・ピット8基が確認された。特に21号墳は、19号墳に続く2例目の石室調査となった。古墳の石室調査は、水戸市内においては、吉田古墳（国史跡）などの数例しかなく、大変貴重な調査事例となった。

西原古墳群においては、前方後円墳である第1号墳の築造時期がもっとも古く、4世紀代の築造と考えられている。第21号墳は古墳の形状等から7世紀代の築造と考えられ、当該地域が、墓域として3世紀にわたり使用されていたことが言える。同じ上市台地上にある台渡里官衙遺跡群と併せ、当該地域の古墳時代から古代にかけての連続性が示唆される。

西原古墳群とその周辺地域は、調査事例の蓄積により、土地利用の一端が明らかになりつつある。今次調査終了後にも、第21号墳と同程度の規模と思われる周溝が確認されている（第6次調査）。今後の更なる調査成果の蓄積を待ちたい。

【引用・参考文献】

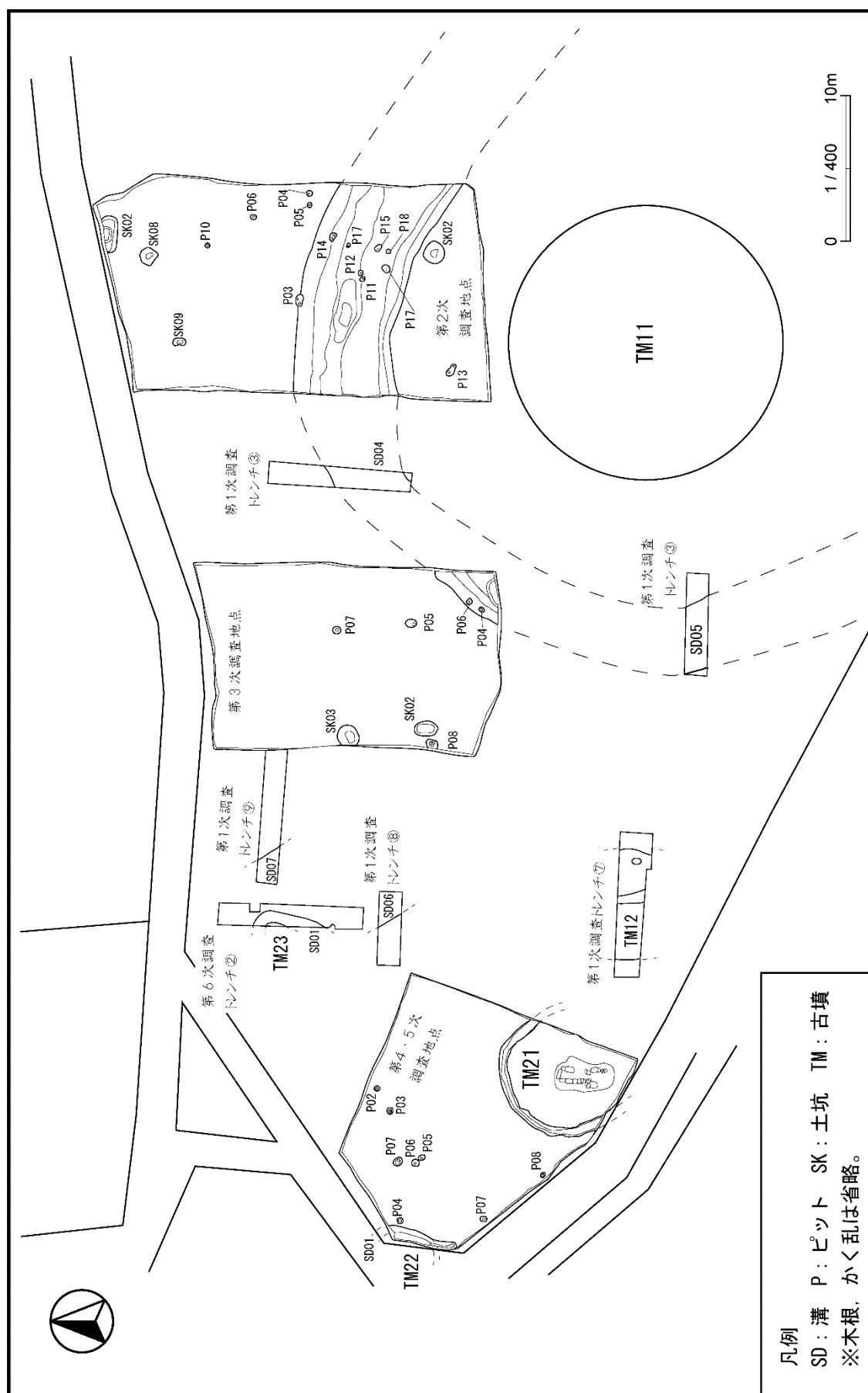
- ・水戸市史編さん委員会編集『概説 水戸市史』, 1999
- ・国土舘大学牛伏4号墳調査団編『牛伏4号墳の調査』1999年
- ・水戸市教育委員会編『吉田古墳1』（水戸市埋蔵文化財調査報告第6集）, 2006
- ・水戸市教育委員会編『水戸市内遺跡発掘調査報告書 平成17年度』
(水戸市埋蔵文化財調査報告 第11集), 2007
- ・水戸市教育委員会編『水戸市内遺跡発掘調査報告書 平成18年度』
(水戸市埋蔵文化財調査報告 第22集), 2009
- ・水戸市教育委員会編『水戸市内遺跡発掘調査報告書 平成19年度』
(水戸市埋蔵文化財調査報告 第35集), 2010
- ・佐々木憲一・鶴見諒平・木村翔・川口武彦「調査報告茨城県水戸市西原古墳群測量調査報告」
(明治大学文学部考古学研究室編『考古学集刊』7, 2011)
- ・茨城県教育委員会編『茨城の文化財 第52集』, 2014

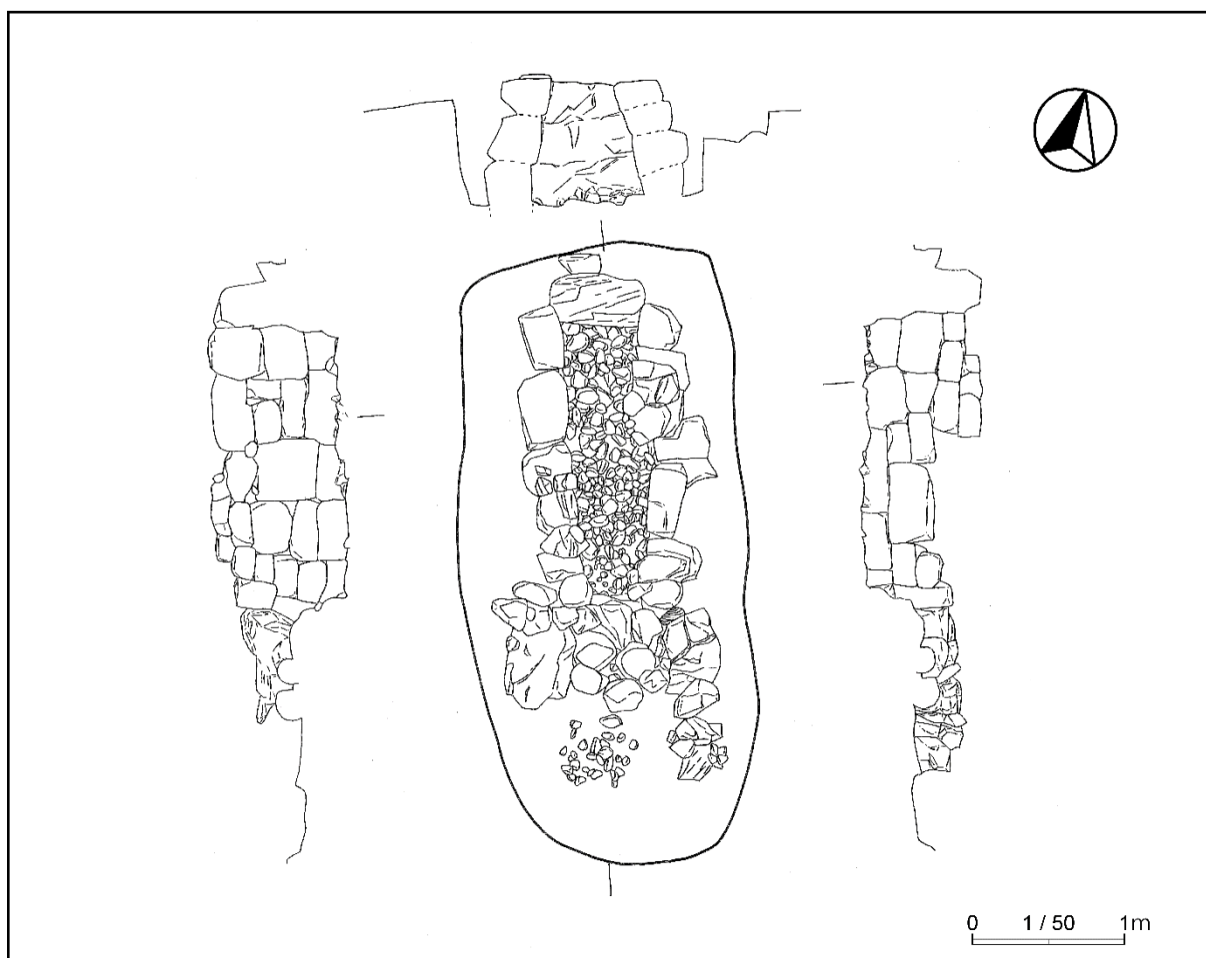


写真図版1 西原古墳群第17地点第5次調査地点全景



写真図版2 西原古墳群第21号墳石室





第3図 西原古墳群第21号墳石室実測図

三世紀	西日本において古墳の造営が始まる
四世紀前半	二の沢古墳群（藤井町）
四世紀半ば	安戸星古墳（飯富町）
終末頃	大洗町鏡塚古墳群
五世紀前半	愛宕山古墳（愛宕町・国史跡）
中期～後期	ひたちなか市川子塚古墳
終末頃	小美玉市三昧塚古墳
六世紀中期	コロニー八六号墳（杉崎町）
～後半	東海村船塚一号墳
後半	牛伏四号墳（牛伏町） 北屋敷一号墳（大串町） ドンドン塚古墳（鯉淵町）
七世紀初頭	ひたちなか市虎塚古墳（国史跡）
●六四五	大化の改新
七世紀中期	吉田古墳（元吉田町・国史跡）
八世紀初頭	権現山横穴墓（下国井町）
●七〇一	大宝律令制定

茨城県央地域の主要古墳の築造時期及び参考年表